

めくれず

裏面白紙

宗

丙
第百五十七号

宗

宗

官報報告

大正六年十一月十三日

宗秩

官

大臣

次官

贈従一位織田信長外四十三名贈位
ノ件

三

宮内省

大正六年十一月十七日
臺帳記入十一月十七日官報報告済

(六)



贈從一位織田信長外四十三名
贈位ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正六年十一月十日

内閣總理大臣伯爵寺内正毅



内閣

内閣 第六五五号

十一月廿八日

大正六年十一月八日

内閣書記官長

内閣總理大臣

内閣書記官長

贈從一位 織田信長

故從四位下 藤堂高亮

故從四位下 松平定綱

故正四位上 井伊直孝

故正四位上 井伊直中

故從四位下 加藤嘉明

内閣

故從五位下 戸田一西

故正四位下 前田治脩

贈從四位 豊島泰盛

故從四位上 森寺常安

故從五位下 森寺常邦

故正五位 市橋長義

故從四位下 前田利明

故從四位下 前田利次

故正六位 城多董

内閣書記官長

十二月廿六日

大正六年十二月八日

内閣書記官長

内閣總理大臣

内閣書記官長

贈從一位 織田信長

故從四位下 藤堂高兑

故從四位下 松平定綱

故正四位上 井伊直孝

故正四位上 井伊直中

故從四位下 加藤嘉明

内閣

故從五位下 戸田一西

故正四位下 前田治脩

贈從四位 豊島泰盛

故從四位上 森寺常安

故從五位下 森寺常邦

故正五位 市橋長義

故從四位下 前田利明

故從四位下 前田利次

從五位上 巖垣松苗

故正六位 城多董

故從五位下 岡田 善同

故從七位 油川 信近

特旨ヲ以テ位階追陞セラル

故 高橋 宗恒

故 石田 勘平

故 中井 忠藏

故 大藏 德兵衛

故 谷 昌平

故 山田 重忠

故 鏡 久綱

内閣

故 宮崎 定範

故 菊池 孫助

故 山岡左次右衛門

故 與謝野 禮庵

故 並河 五一郎

故 末吉孫左衛門

故 橋本 通

故 森野 藤助

故 江馬 正人

故 伊藤傳右衛門

故 堀 四郎

故 大野木 源藏

故 石黒藤右衛門

特旨ヲ以テ位記ヲ贈ラレ

贈従一位 織田 信長

贈正一位

故従四位下 藤堂 高兑

故従四位下 松平 定綱

故正四位上 井伊 直孝

故正四位上 井伊 直中

内閣

故従四位下 加藤 嘉明

故従五位下 戸田 一西

故正四位下 前田 治脩

贈従三位

贈従四位 豊島 泰盛

故従四位上 森 寺常安

故正五位 市橋 長義

故従四位下 前田 利明

故従四位下 前田 利次

贈正四位

故徒五位下 森 寺常 邦

故 高橋 宗恒

故 石田 勘平

故 中井 忠藏

故 大藏 德兵衛

故 谷 昌平

故 山田 重忠

故正六位 城 多 董

故 鏡 久 綱

内 關

故徒五位下 岡 田善 同

故 宮崎 定範

故 菊池 孫助

贈正五位

故 山岡 左次右衛門

故 與謝 野禮嚴

故 並河 五一郎

故 末吉 孫左衛門

故 橋本 通

故 森野 藤助

故從五位下 森 孝常 邦

故從五位上 巖 垣 松 苗

故 高 橋 宗 恒

故 石 田 勤 平

故 中 井 忠 藏

故 大 藏 德 兵 衛

故 谷 昌 平

故 山 田 重 忠

故正六位 城 多 董

故 鏡 久 綱

内 關

故從五位下 岡 田 善 同

故 宮 崎 定 範

故 菊 池 孫 助

贈正五位

故 山 岡 左 次 右 衛 門

故 與 謝 野 禮 巖

故 並 河 五 一 郎

故 末 吉 孫 左 衛 門

故 橋 本 通

故 森 野 藤 助

故従七位 油川 信近

故 江馬 正人

故 伊藤 傳右衛門

故 堀 四郎

故 大野 木源藏

故 石黒 藤右衛門

贈従五位

故従四位下 井伊 直政

故正五位下 巖垣 松苗

故従五位下 巖垣 彦明

内閣

特旨ヲ以テ位階追陞セラル

故 竹原 八郎

故 僧 宗信

故 戸野 兵衛

故 巖垣 六藏

特旨ヲ以テ位記ヲ贈ラル

故従四位下 井伊 直政

贈従三位

故正五位下 巖垣 松苗

贈従四位

故從五位下 巖垣 彦明

贈正五位

故 竹原 八郎

贈從四位

故 僧 宗信

故 戸野 兵衛

贈正五位

故 巖垣 六藏

贈從五位

内 閣

贈従一位 織田 信長

右信長ハ天資賢明兵ヲ用ユル神ノ如ク
能ク群雄ヲ制御シテ擾亂ヲ治メ天下ニ
武功ヲ成シタル勲績ハ實ニ稱揚シテ餘
リアリ惜カナ中道ニシテ斃ル若シ之ニ
十分ノ春秋ヲ假サハ其ノ偉業決シテ豊
臣秀吉徳川家康ノ下ニアラサルヘシ就
中其ノ功績ノ特記スヘキハ戦国衰亂ノ
際獨リ抽テ、皇室擁護ニ最大力ヲ竭セ

内閣

シコト是レナリ其ノ勤王行為ハ秀吉ニ
比シ決シテ遜色ナク家康ニ對シテ既ニ
數等ヲ贏テリ惟テニ國家功勞者ノ前ニ
位階ヲ贈ラレタル者ニ對シ重ネテ上位
ヲ陞贈セラレルルハ事頗ル重大ニ屬シ容
易ニ行フヘキモノニアラス唯々國家稀
有ノ大勲功者ニ對シテノミ破格ノ特典
ヲ行フコトヲ得惟テニ信長カ絶倫ノ雄
圖ニ倚リ多年極衰ノ亂世ヲ治メ皇室ヲ
安泰ニ擁護セシハ當時群雄ニ超脱シ

シタル勲績ナリ其ノ勤王ノ功業ハ決シ
テ秀吉家康ニ譲ラサルモノナリ

内
閣

故 從四位下 藤堂 高克

右高克ハ鶴堂ト號シ高虎十代七世ノ孫
ナリ父高嶷ノ後ヲ嗣キテ津藩主タリ文
化文政ノ際天朝尊崇ニ誠意ヲ盡シ藩政
ヲ釐革シテ節儉ノ政ヲ行ヒ學事ヲ獎勵
シ學校ヲ興ス有造館ト曰フ類ニ賢才ヲ
擧ケ民政産業ニ力ヲ用ヰシハ津藩前後
ニナキ第一ノ隆運時ニシテソノ育英ト
殖産ニ聲譽ヲ博シ況ヤ多數ノ名儒ヲ出
セシハ一ニ高克ノ功ニ因ルモノト云

内閣

故從四位下 松平 定綱

右定綱ハ舊桑名藩主ナリ寛永年間治世ニ心ヲ竭ス常ニ神祇ヲ尊ヒ文武ヲ獎勵シ勤儉躬行以テ農業ヲ勸メ民政ヲ隆ニス河水ヲ治メ樹藝ヲ勉ム荒蕪ノ地ヲ開拓シテ多ク新田ヲ作レリ居民深ク遺徳ニ感シ祠ヲ設ケテ其ノ靈ヲ祀ル從未戰亂ノ餘人民離散シ土地山林荒廢ニ歸シテ久シク治績舉ラザリシヲ定綱ニ及ヒ善ク篤政ヲ施シ農工商ヲシテ生業ニ安セシムルニ至ル

内閣

めくれず

故正四位上 井伊直孝

右直孝ハ舊多根藩主ニシテ深ク政事ニ
心ヲ用井勵精治ヲ圖ル特ニ民政軍政ニ
力ヲ竭クス所多ク又殖林樹藝ノ良法ヲ
設ケ且ツ新田ヲ墾キ水害ヲ除ク其ノ民
利ヲ主トシテ公益ヲ謀リニ功績實ニ少
カラス

内閣

故正四位上 井伊 直中

右直中、舊彦根藩主ニシテ賢明ノ資ヲ
負フ寛政年中學校ヲ興シテ文武ノ業ヲ
勵コシ多ク英才ヲ養フ又諸國學校ノ良
制ヲ参酌シテ文、和學漢學兵學禮節算
學天文醫學ヲ授ケ武、弓馬劍槍銃砲居
合柔術游泳ヲ習ハス勤儉ノ政ヲ施テ庶
民ノ撫育シ巨資ヲ投ヒテ水流ヲ浚濬シ
堤防ヲ築造ス諸村之カ為ニ害ヲ免ル且
一内閣
フ育子法ヲ設ケ開墾殖産ノ事業ヲ奨勵
シテ大ニ公益ヲ謀ル經國濟民真ニ其道
ヲ得タリ

故從四位下

加藤

嘉明

右嘉明ハ天正慶長ノ間内外ノ大小諸戰ニ於テ功ヲ樹フルモノ頗ル多シ其ノ後諸所ニ轉封セラレ治所ニ在テ殖産興業ニ力ヲ竭クシ河水ヲ治メ田野ヲ拓キ險路ヲ通シ山林ヲ養ヒ鑛業ヲ勵マシマシ人馬交通ノ便ヲ設ケ庶民ノ公益ニ國家ノ進運ニ苦心奮勉セル功績ハ當時武將中ニ於テ稀ニ見ル所ナリ

内

關

故從五位下 戸田 一西

右一西ハ左門ト稱ス舊大垣藩主戸田氏ノ祖先ナリ天正慶長中兵馬ノ間ニ馳騁シテ克ク時難ヲ戰ム其ノ武州鯨井城ニアルヤ入間川ノ水ヲ治メテ能ク民苦ヲ救ヒ後ケ近江膳所城ヲ築クヤ專ラ治水殖産ニ力ヲ竭シ頻々湖面ノ水ヲ治メテ民厄ヲ除キ且ツ廣ク新田ヲ墾キテ民利ヲ興コセルト施恩少カラヌマタ鯨井ノ規具ヲ瀬田川ニ移シ一産物ノ利ヲ地方ニ興ヘタルヲ悦ビ土人稱シテ瀬田規マタ左門規ト曰フニ至ル民政ニ心ヲ用井功ヲ遺スモノ多シ

内閣

故正四位下 前田 治脩

右治脩ハ舊加州藩主ナリ資性英明深ク
封内ノ疲弊シテ風俗ノ澆漓ニ陷井ルヲ
憂ヒ銳意匡救ノ策ヲ講シ儉素俗ヲ改メ
文武ノ兩校ヲ設ケテ士風ヲ正ス即チ明
倫堂ヲ設ケテ文教ヲ盛ニシ經武館ヲ興
シテ武術ヲ勵マス多ク名儒ヲ聘シテ一
般教育ニ力ヲ致セリ其ノ地方政治ニ功
ヲ收メシモノ歟カラスト謂フヘシ

内閣

故從四位下 井伊 直政

右直政ハ舊彦根藩祖ニシテ當時佐和山城主タリ天正慶長ノ間屢々各所ノ征戰ニ隨ヒ能ク戰國時代ノ擾亂ヲ戡定シ懇ニ領民ヲ愛撫シテ力ヲ治術ニ盡ス仍チ第十三代ノ孫直中護國殿ヲ創立シテ直政及直孝ノ靈ヲ祀ル今ノ縣社佐和山神社是ナリ其ノ文勳武功洵ニ顯著ナルモノ多シトス

内

關

贈従四位 豊島 春盛

右春盛ハ元有栖川宮諸大夫ナリ飯田左
馬ト志ヲ合セ宮殿下ヲ輔翼シテ頻ニ國
事ニ周旋ス安政大獄ノ起ルヤ幕議ヲ蒙
ムリ左馬ト俱ニ獄舎ニ下ル後々赦サレ
テ出仕ノ恩命ヲ受ク文久年間山陵修理
ノ事ニ盡カシ朝廷ノ感状ヲ賜フ曩ニ従
四位ヲ贈ラレタルモ其ノ功績更ニ顯著
ナルモノアルヲ認ム

内 閣

故從四位上 森寺 常安
故從五位下 森寺 常邦

右常安常邦父子ハ元三條家ノ諸大夫ナ
リ安政五年戊午事變ノ際大ニ國事ニ周
旋シ松平慶永山内豐信ノ建策ヲ助ケ橋
本左内等ト謀リ三條實萬ニ建言シテ將
軍繼嗣並ニ外國處分ノ議ニ及フ之カ為
勅書ヲ水戸徳川氏ニ下サレ世論紛擾遂
ニ一大疑獄ヲ起スニ至ル所謂安政大獄
之レナリ是ニ於テ兩人亦嚴刑ヲ被フル
ニ至ル其ノ國家ノ為ニ奮勉セシ所ノ功
勞ハ頗ル顯著ナルモトス

内閣

故正五位 市橋 長義

右長義ハ舊西大路藩主ナリ王政維新ノ際克ク正義ヲ唱ヘテ維新ノ大業ヲ職贊シ常ニ藩士ヲシテ國家ノ公務ニ竭カシム或ハ攘夷警備ニ役シ行幸供奉ニ勤ムマタ王帥東征ニ當リ藩兵ヲシテ東山道總督ノ軍ニ隨ハシメ大ニ忠誠ヲ抽テ奉公ニ勤勞アリ

内閣

故從四位下 前田 利明

右利明ハ舊大聖寺藩主ニシテ寛文ヨリ
元禄ノ間頻ニ藩政ヲ整革シ能ク藩治ニ
勵精シテ民政上ニ功アリ荒蕪地ヲ開墾
シ河川水利ヲ治メテ灌溉耕作ニ便ナラ
シム陶工織物製茶等ヲ勸奨シ殖産撫民
ニ功アル大ナリト謂フヘシ

内 閣

故從四位下 前田 利次

右利次ハ舊富山藩主ナリ大ニ藩治ニ力
ヲ竭クシ武術ヲ勵マシテ士風ヲ正シ産
業ヲ勸メ治水土木ニ心ヲ用井テ尤モ民
政ニ偉功ヲ顯ス

内 閣

故正六位 城多 董

右董、近江國甲賀郡北杣村字牛飼ノ人
ナリ嘉永安政以來時勢ニ慷慨シ廣ク四
方ノ有志ト交ヲ結ニ屢々危險ヲ冒シテ
國事ニ奔走ス依テ明治維新ノ初朝廷ニ
奉仕シ數官ニ厯用セラル其遺稿昨夢記
ニ掲ケタルカ如ク勤王正義、為ニ盡瘁
セシ所甚ク稱揚スヘキモノ多シ

内 閣

故從五位下 岡田 善同

右善同(將監)ハ慶長衰亂ノ後チ美濃地方ノ荒蕪ヲ治メ銳意民苦ヲ除キ惠澤指導善ク部内ニ及ヒ元和年間美濃奉行トナル寛永年中伊勢山田奉行ヲ勤メ尋テ御普請奉行トナル仍テ正遷宮ノコトヲ勤行ス又美濃ノ水害多キヲ憂ヒ專ラ水理ヲ治メテ民厄ヲ除カント謀リ新ニ築隄法ヲ發明シテ木曾長良捐斐三大川ニ實

内閣

施ス庶民之カ爲ニ洪水ノ害ヲ免ル名ケテ岡田堤マタ將監堤ト曰フ加之猿尾ヲ設ケテ水害ヲ除ク人呼テ岡田猿尾ト稱ス其ノ後チ和蘭國土木技師此工事ノ優良ナルヲ觀テ大ニ設計ノ巧妙ナルヲ歎美セリトソ且ツ用水灌漑ト荒地開墾トニ於テ民益ヲ起シタル功績頗ル多シ是ヲ以テ衆民其ノ徳ニ感シ祠ヲ設ケテ其ノ靈ヲ祀ル厚シト謂フヘシ

故從七位 油川 信近

右信近、舊水口藩士ナリ維新前國家多
難ノ際虜ク四方ノ名士ニ交ヲ納レ日夜
奔走シテ克ク勤王ノ誠ヲ竭クス且フ藩
内ノ俗論ヲ排シ宿弊ヲ釐革シテ深ク王
政復古ノ雄圖ヲ翼賛セ、其ノ功勞最モ
視ルヘキモノアリ

内 閣

故 高橋 宗 恒

右宗恒ハ京都ノ人ナリ能ク古典ニ通シ
尤モ有職故實ノ學ニ精熟ス貞享四年
東山天皇御即位ニ當リ大嘗會再興ノコ
トアルヤ朝廷其ノ人ニ乞ク記録例證ノ
失ハレタルモ多カリシカ宗恒召サレ
テ大嘗會勅物其ノ他諸種ノ圖ヲ奉リ朝
儀ノ復舊ニ貢獻セルモノ鮮少ナラス其
ノ功深ク嘉賞スヘシ

内 閣

故 高橋 宗恒

宗恒ハ京都ノ人ナリ能ク古典ニ通シ
凡モ有職故實ノ學ニ精熟ス貞享四年
本山天皇御即位ニ當リ大嘗會再興ノコ
アルヤ朝廷其ノ人ニ乞フ記録例證ノ
大ハレタルモノ多カリシカ宗恒召サレ
大嘗會勸物其ノ他諸種ノ圖ヲ奉リ朝
儀ノ復舊ニ貢獻セルモノ鮮少ナラス其
功深ク嘉賞スヘシ

内

關

右宗恒ハ京都ノ人ナリ能ク古典ニ通シ
尤モ有職故實ノ學ニ精熟ス貞享四年
東山天皇御即位ニ當リ大嘗會再興ノコ
トアルヤ朝廷其ノ人ニ乞ク記録例證ノ
失ハレタルモノ多カリシカ宗恒召サレ
テ大嘗會勸物其ノ他諸種ノ圖ヲ奉リ朝
儀ノ復舊ニ貢獻セルモノ鮮少ナラス其
ノ功深ク嘉賞スヘシ

内

閣

故石田 勘平

右勘平、貞享二年丹波國桑田郡東懸村
ニ生レ後々京都ニ轉任ス弘ク梅巖ノ號
ヲ以テ世ニ知ラル風ニ心學ノ一派ヲ開
キ神儒佛ノ教理ヲ併説ヒテ專ラ平民教
育ノ為ニ力ヲ竭クシ務メテ通俗的訓法
ニ依リ世上ノ弊風ヲ矯正セリ其ノ學說
漸次諸國ニ傳播シ世道教化ノ為ニ特功
ヲ奏ス實ニ後世ノ碩學巨儒ヲレテ敬服

内閣

巴マサラシム

故 中井忠藏

右忠藏ハ、菴庵ト號ス大阪ニ於テ學問教
育ノタメニ精カヲ俸ケ享保中懷徳堂ノ
學主ト為ル日夕講筵ヲ設ケ民間諸人ノ
爲ニ道學ノ教化ヲ導キシ功頗ル顯著ナ
リトス終生孝悌忠信ノ道ヲ講シテ一般
文教上ニ貢獻セシ所ノ勲績尤モ感賞ス
ヘキモノ多シ

内 閣

故 大藏 徳兵衛

右徳兵衛ハ諱ヲ永常ト曰ヒ龜翁ト號ス
 明和五年豊後國日田郡隈町ニ生レ後チ
 大阪ニ永住ス資性慧敏頗ル溍民ノ志ヲ
 勵ミ遠ク諸國ヲ遊歴シテ見聞ヲ弘メ深
 ク當時ノ名家ト交リ農學家ヲ以テ顯ル
 苟モ農學上國益ト為ルヘキコトハ細大
 トナク凡テ注意研究シ其ノ著作三百部
 八千卷ニ及フト云フ恰モ佐藤信淵ト同

内 閣

時ニシテ農學上東西ノ偉人ト併稱セラ
 レタリ其ノ農政國産ヲ獎勵セシ所ノ智
 能孰レモ實學ニシテ全ク毀譽ヲ度外ニ
 置キ一身ヲ此ノ道ノタメニ貢獻セシ所
 ノ恩人ナリ國家富強ノ策ヲ講究スルノ
 急ナル今日ニ於テ決シテ忘ルヘカラサ
 ル後傑ト謂フヘシ

故 谷 昌平

右昌平ハ大和國高市郡八木町ノ人ナリ
三山ト號ス學術醇厚ニシテ深ク經國濟
世ノ志ヲ抱キ常ニ名流ト交リテ時務ヲ
論シ尊王ノ大義ヲ唱フソノ主張スル所
能ク忠義孝節ノ精髓ヲ傳フ詢々道義ヲ
説テ時人ヲ徳化シ一世ニ貢獻セシモノ
尤モ稱揚スヘシ

内 閣

故山田重忠

右重忠ハ尾張國春日井郡山田村(今ノ西
春井郡六鄉村)ノ人ナリ資性勇武ニ勝レ
常ニ孝行ヲ以テ稱セラレ承久ノ役起ル
ヤ率先シテ皇軍ニ屬シ屢賊ト戰テ功アリ
洲股杭瀨川小關宇治勢多淀各所ノ
苦戰ニ於テ精忠ヲ抽テ勇奮謀略ヲ竭ク
セシ效驗ナク不幸ニシテ皇軍遂ニ敗績
セリ重忠寡兵支フル能ハス歸リ奏セシ

内閣

ト欲スレトモ宮門ニ入ルコトヲ得ス奔
テ嵯峨山ニ入り賊兵ノ圍ム所トアリテ
自刃ス此役マ忠重ノ子重繼以下一門ノ
王事ニ殉スル者十餘人ニ及フソノ大節
孤忠聞ク人ヲシテ悉ク義烈ニ泣カシム
其功豈ニ稱揚セスシテ已ムヘケンヤ

故 鏡 久 綱

右久綱ハ佐々木定重ノ子ナリ承久ノ變
ニ其ノ一族ヲ提ケテ皇軍ニ参加ス奮戦
數次ノ後々衆寡敵セス遂ニ潰敗シテ憤
死セリ其ノ勇猛壯烈ノ最期ハ實ニ勤王
軍ニ隨ヘルモノ、模範トシテ永ク史傳
ニ感賞セラレタリ

内 閣

故宮崎定範

右定範ハ越中國宮崎ノ人ナリ承久ノ變
皇威ヲ擁護スルタメ義軍ヲ興シテ能ク
鎌倉兵ノ逆襲ヲ防キ勇戦奮闘遂ニ礪波
山ニ於テ忠死ス其ノ赤誠純節以テ勤王
家ノ龜鑑トナスニ足ル

内閣

故菊池孫助

右孫助ハ諱ヲ保定ト曰ヒ溪琴マタ海莊
ト號ス紀伊國有田郡栖原村ノ人ナリ其
ノ正觀公ノ後裔ナルヲ以テ資性義俠常
ニ大志ヲ抱キ善ク忠孝節義ニ勵ム專ラ
文學武術ニ志シ文ヲ諸名家ニ結ヒ廣ク
當時ノ志士ト謀ル慷慨淋漓國事ヲ以テ
自ラ負フ嘉永以降勤王ノタメニ盡セル
モノ甚タ多シ

内閣

故 山岡左次右衛門

右左次右衛門ハ江戸ニ生レ京都ニ於テ
歿ス廣ク和漢ノ學ニ通シ其ノ著書本朝
類聚名物考ノ如キハ文學界ニ甚大ノ利
益ヲ興ヘ人ヲシテ其ノ精細該博ニ驚カ
シムルモノ多シ

内 閣

故 興謝野 禮嚴

右禮嚴ハ京都ノ人ニシテ本派本願寺ニ
属スル僧侶ナリシカ王政維新ノ際能ク
紛亂ノ間ニ斡旋シテ一意勤王ノ事ニ力
ヲ竭シ尚ホ國家ノ進運ニ貢獻セル所ノ
功績甚タ多シ

内 閣

故 並河五一郎

右五一郎ハ山城國横大路村ノ人ナリ伊
藤仁齋ノ門下ニシテ深ク其ノ志ス所ノ
學術ヲ精研シテ書ヲ著シ世ニ益セルモ
ノ多シ特ニ神道並ニ地誌ニ関スル諸説
ハ前人未發ニ屬スルアリト謂フ

内
関

故末吉孫左衛門

右孫左衛門ハ攝津國東成郡平野郷町ノ
人慶長年間父ノ業ヲ繼テ海外貿易ニ從
事シ將軍家ヨリ渡航ノ朱印狀ヲ受ケテ
呂宋暹羅安南東京諸方ニ往來シ又大阪
東海諸國間ノ廻船業ヲ改善シ能ク交通
運輸ノ便ヲ圖レリ元和元年功ヲ以テ河
内國志紀河内兩郡ノ代官ト為ル孫左衛
門專ラ祖業ヲ擴張シ且ツ子孫ニ遺命シ
テ大ニ國利民福ヲ圖ラシム其ノ功寔ニ
嘉賞スヘキモノ多シ

内閣

故橋本通

右通ハ半助ト稱シ香坡ト號ス上野國沼田ニ生レ後チ攝津國伊丹ノ橋本氏ニ養ハレテ其ノ家ヲ嗣ク夙ニ學ヲ修メ秀才ヲ以テ稱セラレ廣ク天下ノ志士ト交リ頻ニ勤王ノ大義ヲ説ク遂ニ藤井藍田ノ幕譴ヲ蒙アルニ連坐シテ獄ニ下ル後チ一旦釋サレシモ復々嫌疑ヲ以テ再々獄ニ投セラル為ニ病ヲ獲テ獄中ニ斃ル其ノ國家ヲ思ヒ勤王ノ事ニ貢獻セシ所ノ忠功決シテ没スヘカラス

内

閣

故 森野 藤助

右藤助、大和國宇陀郡松山町ノ人ナリ
享保寛政間本草學ニ志シ藥園ヲ開キ弘
ク藥草ヲ栽培シテ頻ニ藥物ヲ製セリ時
ニ舶來ノ藥物高價ニシテ窮民ノ服用ニ
堪ヘ難キヲ以テ人命救助ノ意ヲ作シテ
藥草普給ニ終生ノ力ヲ用井シハ實ニ特
功ト稱フヘシ

内 閣

故 江馬 正人

右正人ハ近江國坂田郡六莊村ノ人ナリ
夙ニ先人ノ箕裘ヲ継キテ儒學並醫學ヲ
業トシ且蘭學ヲ修ム嘉永以來頻ニ時勢
ニ慷慨シ有志ト俱ニ國事ニ幹旋ス王政
維新ノ際其兄ト朝官ニ擢用セラレ文書
ヲ掌リ繁劇頗ル務ム故ニ屢ニ榮賜アリ
其ノ後蝨ク寇ヲ挂ケテ野ニ退キ子弟教
養ヲ以テ任トス公卿以下少年輩ノ其門
ニ入ルモノ多シ退官後久シク餘生ヲ文
墨ノ間ニ託スト雖モ勤王奉公ノ志少レ
モ衰ハサリシト謂フ

内 閣

故 伊藤傳右衛門

右傳右衛門ハ美濃國安八郡大藪町ノ人ナリ治水ノ知識衆ニ勝レルヲ以テ安永中大垣藩ノ郡奉行トナリ川普請ノコトヲ以テ任セラル故ニ諸村水害防備ノ夕メ惡水排除ノ方法ヲ考ヘ揖斐川ノ水底ニ伏越樋ヲ設ケ遠長ノ惡水路ヲ開鑿シ其ノ設計ノ如キ夜半潛ニ燈火ヲ目標トシテ測量セルナト苦心深ク察スヘシ寢食ヲ忘レ百難ヲ排シテ能ク大工事ヲ竣成ス然ルニ惜カナ其ノ身ヲ非命ニ棄ツ其ノ精神ノ貫ク所疏水墾田俱ニ良功ヲ奏ス人民僉テ其ノ徳ニ感シ遂ニ記功碑ヲ建テ表彰スルニ至ル

内 閣

故堀四郎

右四郎ハ元加州藩ノ政務ニ任シ藩世子
慶寧ノ近習並侍讀トナリ専ラ有志ト謀
リ勤王ノタメニ周旋ス元治甲子ノ變其
ノ藩ニ歸リ嚴譴ヲ蒙リシモ固ヨリ其ノ
罪ニアラス後チ大赦ニ遇ヒ藩吏ノ諸職
ニ擧用セララル故ニ慶寧ヲシテ藩臣ノ俗
論ヲ排シ勤王ノ正義ヲ藩内ニ播カシメ
シハ實ニ四郎等ノ功ニ屬ス

内 閣

故 大野木 源藏

右源藏ハ舊加州藩士ナリ藩世子慶寧ノ
近習トシテ之ヲ輔佐ス同志ト俱ニ斡旋
シテ正義ヲ首唱セリ慶寧ノ藩中ノ邪論
ヲ排シテ勤王ノ功ヲ樹テシハ多ク源藏
等同志ノ力ニ賴ル元治甲子ノ變藩命ヲ
以テ嚴譴ニ遭ヒシモ固ヨリ其ノ罪ニア
ラス後チ釋サレテ藩吏ナリ大ニ盡クセ
シモノアリ

内 閣

故 石黒藤右衛門

右藤右衛門ハ越中國射水郡高木村ノ人ニシテ和算學者ナリ夙ニ算數ノ術ヲ好ミ測量製圖ノ技ニ精シ更ニ高等ノ數學ヲ研究シテ又更ニ天文曆學ニ及フ寛政ヨリ天保ノ間多ク加州藩ノ命ヲ受ケテ屢々分間地圖マタ檢地測量等ニ從事ス用水設計山野開墾ニ力ヲ盡セリ其ノ深邃ノ學術之ヲ民政上ニ施シテ國益ニ資セルモノ多大ナリ其ノ著書時人ノ稱贊ヲ得ルハ勿論遂ニ海外ニ傳播シ西人刊行ノ雜誌中ニ於テ其ノ造詣ノ偉大ナルヲ歎賞スルニ至ル

内

閣

改正五位下 巖垣 松苗

右松苗ハ初メ巖垣龍溪ニ學ヒ後々其ノ
 家ヲ嗣ク勤王ノ志頗ル深ク殊ニ史學ニ
 長シ其ノ著國史略ノ如キハ前人未發ノ
 說ヲ極メ大ニ當時ノ人心ヲ感激セシム
 且ツ皇族ノ入釋ヲ廢セラレニコトヲ論
 シ又類ニ西洋學ノ誘導ヲ説キ又門人桐
 山保ヲシテ 天皇御遊幸茲ニ禁裏御料
 増獻ノコトヲ起草セシメ其ノ他非孟辨
 ヲ著シテ世ノ視聽ヲ驚カセシモノ多シ
 其ノ 王室ヲ尊ヒ學業ヲ以テ 國家ニ報
 ヒシ所ノ功績甚ク顯著トス

内 爾

故從五位下 巖垣 彦明

右彦明ハ學ヲ清原家ニ受ケカヲ子弟教
育ニ竭シ龍溪ノ號ヲ以テ名ヲ世ニ知ラ
ル其ノ塾ヲ遵古堂ト云フ國史典故ニ精
シク著書ヲ天覽ニ供シ又屢内旨ニ依リ
古儀ヲ調査セルモノアリ其ノ功大ニ嘉
賞スヘキ所アリ

内閣

故 竹原 八郎

右八郎ハ大和國吉野郡大塔村字辻堂ノ
人ナリ元弘ノ亂大塔宮護良親王ノ逃レ
テ十津川ニ入ラルルヤ久シク八郎ノ家
ニ留ラセラレ八郎ヲミテ令旨ヲ齎ラシ
テ熊野伊勢ニ義兵ヲ募ラシメラル元弘
二年六月八郎兵ヲ伊勢ニ起シ奮戦苦闘
其ノ終ル所ヲ知ラス惟クニ親王カ中興
ノ偉功ヲ奏セラレシハ八郎勤王正義ノ
功典ヲ大ニカアリトス

内 關

故僧宗信

右宗信、元弘三年大塔宮護良親王吉野
ニ兵ヲ起サルルヤ大ニ忠勤ヲ竭クニ後
醍醐天皇賀名生ヨリ吉野ニ御遷幸ノ
御沙汰アルヤ宗信勅ニ應ニ衆徒ヲ率井
テ奉迎ス天皇吉野山ニ遷御ノ際賞シテ
法印ノ位ヲ賜ヒ崩御ノ後々遺勅ヲ奉シ
テ後村上天皇ニ仕ヘ頗ル勤王ノ功アリ

内閣

故 戸野 兵衛

右兵衛ハ大和國十津川ノ人ニシテ元弘ノ際大塔宮護良親王ヲ奉レ以薪嘗膽叔父竹原八郎ト力ヲ合セ終始勤王ノ為ニ竭セハ功多シ

内 附

故 巖垣 六蔵

右六蔵ハ月洲ト號ス本姓岡田氏ナリ其ノ業ヲ巖垣龍溪ニ受ケ後チ巖垣氏ヲ冒ス松苗ノ歿スルヤ繼テ遵古堂ノ弟子ヲ教ユ天保中朝廷學習院ヲ設ケラルルヤ選ハレテ教授ノ職ニ就ク後チ明ヲ失スルモ尚ホ講習怠ラス盛ニ教育ノ為ニ勉メタリ

内 閣

四
七

高
佐
部

宮
内
省

(六)

78

裏
面
白
紙

丙 大正六年十月十七日

正六月十五日

決裁 正 月 日

贈位録長

宗秩寮總裁

宮内省警



贈位傳達案

贈從一位織田信長

特旨ヲ以テ位階追陞セラル

贈從一位織田信長

贈正一位

宮内省

右ノ通本日 宣下相成候條此旨及傳達候也

大正六年十月十七日

宗秩寮總裁

子爵織田信恒

故從四位下藤堂高元

特旨ヲ以テ位階追陞セラル

故從四位下藤堂高元

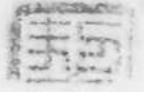
贈從三位

前同文

大正六年十月十七日

宗秩寮總裁

伯爵藤堂高元



特旨ヲ以テ位階進陞セラル
 故從四位下松平定綱
 贈從三位
 前同文

大正六年五月十七日

宗秩寮總裁
 子膏松平定晴

宮内省

故正四位上井伊直孝
 故正四位上井伊直中
 故從四位下井伊直政
 故正四位上井伊直孝
 故正四位上井伊直中
 故從四位下井伊直政

特旨ヲ以テ位階進陞セラル

贈從三位
 前同文

大正六年五月十七日

宗秩寮總裁
 伯耆井伊直忠

故從四位下加藤嘉明
 故從四位下加藤嘉明

特旨ヲ以テ位階進陞セラル

贈後三位
前同文

大正六年十月十七日

宗秩察總裁
子壽加藤克明

特旨ヲ以テ位階進陞セラレ
故後五位下戸田一西

贈從三位

前同文

大正六年十月十七日

宗秩察總裁

伯壽戸田氏共

特旨ヲ以テ位階進陞セラレ
故正四位下前田治脩

贈從三位

前同文

大正六年十月十七日

宗秩察總裁
候爵前田利為

特旨ヲ以テ位階進陞セラレ
故從四位下前田利次

(五六)

故從四位下前田利次

贈正四位

前同文

大正六年十月十七日

宗秩寮總裁

伯耆前田利同

故從四位下前田利明

特旨ヲ以テ位階進陞セラル

故從四位下前田利明

贈正四位

前同文

大正六年十月十七日

宮内省

宗秩寮總裁

子壽前田利毫

故正五位市橋長義

特旨ヲ以テ位階進陞セラル

故正五位市橋長義

贈正四位

前同文

大正六年十月十七日

宗秩寮總裁

子壽市橋虎雄

丙寅年十一月十七日

正六十月六日
決裁 正 拜月日

贈位

宗秩奉法裁

宮内省



業

故與謝野禮巖

時旨ヲ以テ位記ヲ贈ラシ

大正六年十一月十七日

故與謝野禮巖

宮内省

贈從五位

大正六年十一月十七日

右ノ通 宣下相成并生此旨及付達也

大正六年十一月十九日

宗秩奉法裁

與謝野寛殿

(五六)

83

丙
大正六年十月十七日

大正六年十月十七日
決裁
正
年月日

爵位

宗族

官職



贈位傳達電報案

本日特旨ヲ以テ贈位四位上森寺常安正四位上森寺常邦及從五位下
苗從四位上森寺常安正四位上森寺常邦及從五位下
岩垣彦明正五位上追陞セラレ故高橋宗恒故

宮内省

石田勘平正五位上故山岡左次右衛門故典
謝野禮嚴故並河五一郎故岩垣六藏
ハ從五位上贈ラレタルニ付各其向ハ傳達方取計
ハルニ贈位記並傳令ハ郵便ニテ送ル
大正六年十月十七日

宗族寮總裁

木内京都府知事(二万七十字)

本日特旨ヲ以テ故中井忠藏故大藏徳兵衛
ハ正五位上故末吉孫左衛門ハ從五位上贈ラレ
タルニ付各其向ハ傳達方取計ハルニ贈位記
並傳令ハ郵便ニテ送ル
大正六年十月十七日

(五)

宗秩寮總裁
大久保大政府知事 (百廿四字)

本日特旨ヲ以テ坂橋本通、従五位ヲ贈ラシメ
凡レ付其向、傳達方取計ハレハシ贈位記並
解令ハ郵便ニテ送ル
大正六年十月十七日

宗秩寮總裁
清野兵庫縣知事 (九十四字)

本日特旨ヲ以テ坂山田重忠、正五位ヲ贈ラシ
メ凡レ付其向、傳達方取計ハレハシ贈位記
並解令ハ郵便ニテ送ル外ニ贈従一位織田信長
正一位ニ追陞セラシメ下モ其子孫ニ傳達シ
タレハ付御心得直ニ申進ス
大正六年十月十七日

宮内省

宗秩寮總裁
松井愛知縣知事 (百六十九字)

本日特旨ヲ以テ坂堀四郎故大野木源藏ハ
従五位ヲ贈ラシメ凡レ付其向、傳達方取計
ハレハシ贈位記並解令ハ郵便ニテ送ル外ニ故
正四位前田治脩ハ従三位ニ故従四位下前田
利明正四位ニ追陞セラシメ下モ其子孫ニ傳
達シタレハ付御心得直ニ申進ス
大正六年十月十七日

(六六)

宗秩寮總裁

土政石川縣知事 (百九十九名)

本日特旨ヲ以テ故正六位城多々董正五位ニ故
從七位油川信近從五位ニ追陞セラシ故鏡久綱
一正五位故江馬正人、從五位ヲ贈ラシタルニ付冬
中内一付遺方取計ハ一ニ賜位記置給合ハ
御役ニ付送ルル外ニ故正四位上井伊直孝故
正四位上井伊直中故從四位下井伊直政故
正四位下加藤嘉成故從三位ニ故正五位市橋
長義正四位ニ追陞セラシタル下モ冬其子孫ハ
傳達シタル付席心得占ニ申進ス
大正六年十月十七日

宮内省

宗秩寮總裁

池松滋賀縣知事 (三十三名)

本日特旨ヲ以テ故從五位下岡田善吾同正五位
ニ追陞セラシ故伊藤傳左衛門、從五位ヲ賜
ラシタルニ付冬中内一付遺方取計ハ一ニ賜位
記置給合ハ御役ニ付送ルル外ニ故從五位下
戸田一西從三位ニ追陞セラシタル下モ其子孫ハ
傳達シタル付席心得占ニ申進ス
大正六年十月十七日

宗秩寮總裁

石橋政阜縣知事 (三十三名)

本日の特旨より、左の如く、従四位下藤堂高房、従四位下松平定綱、三位二進陞せらるる事、此中并各其子孫、傳達せらるる事、御心得と申進す

大正六年十月十七日

皇太后陛下

御覽三重御事 (百十中)

本日特旨より、左の如く、本日の特旨より、左の如く、従四位下松平高房、昌平、故僧、宗信、故戸野兵衛、正五位下、故森野藤助、従五位下、賜らるる事、此中并各其子孫、傳達せらるる事、御心得と申進す

宮内省

大正六年十月十七日

皇太后陛下

御覽三重御事 (百十中)

本日の特旨より、左の如く、本日の特旨より、左の如く、従五位下松平高房、昌平、故僧、宗信、故戸野兵衛、正五位下、故森野藤助、従五位下、賜らるる事、此中并各其子孫、傳達せらるる事、御心得と申進す

皇太后陛下

御覽三重御事 (百九十一中)

(六六)

本日特旨ヲ以テ取寄地孫助一正五位ヲ贈
ろしるんこ竹其向つ侍連方所計ハ九つし路位
記並御令の御使とす是れ
大正六年十月十七日

多岐重海裁
麻小右新助山右左衛門 (九十六字)

宮内省

五七三五

立案大正六年五月一日

決裁大正 年 月 日

贈位



宮内省



贈位記回送案

贈正四位

豐島泰盛

贈正四位

森寺常安

贈正五位

森寺常邦

贈正五位

森寺常邦

贈正五位

巖垣彦明

贈正五位

石田勘平

贈正五位

山岡左次右衛門

贈正五位

並河五一郎

贈正五位

巖垣六藏

右之者ニ對スル贈位記並辭令送付候ニ付各
其向ニ交付方取計有之度交付濟ノ上ニ受領者
ノ氏名住所及其者ニ贈位者ノ關係ヲ累記
シ報告有之度此段中道進候也

大正六年十二月 日

宗秩寮總裁

木内京都市府知事

前日又
贈正五位 中井忠藏
大藏德兵衛
末吉孫左衛門

大久保大坂府知事

贈從五位 橋本 通

前日又
清野兵庫縣知事

贈正五位 山田重忠

前日又
松井愛知縣知事

宮内省

贈從五位 堀 四郎
大野木源藏

前日又
土岐石川縣知事

贈正五位 城多 董
贈從五位 油川信近
贈正五位 鏡 久綱
贈從五位 江馬 正人

前日又
池松滋賀縣知事

贈正五位 岡田善周
贈從五位 伊藤傳右衛門

前同文 石橋岐阜縣知事

贈從四位 竹原八郎
贈正五位 谷昌平

贈從五位 僧宗信
贈從五位 戶野兵衛
贈從五位 森野藤助

前同文 木田川奈良縣知事

宮内省

贈正五位 宮崎定範
贈從五位 石黒藤右衛門

前同文 井上富山縣知事

贈正五位 菊池孫助

前同文 鹿子木和歌山縣知事

贈正四位 市橋長義

右之者ニ對スル贈位記並詳令及交付也

大正六年十二月 日

宗秩寮總裁

子爵平橋虎雄

贈正四位 前田利次

前日又

伯爵前田利國

贈正四位 前田利明

前日又

子爵前田利聖

贈正五位 與謝野禮嚴

前日又

與謝野寬

宮内省

